

『沖縄豎琴』完成への経過と作品集（前）

杉本信夫

『沖縄豎琴』制作および沖縄豎琴用の作品集の発端は、沖縄わらべうた研究会NPO法人“うていーらみや”（田中美也子主宰による民間の実践的研究団体）から、沖縄のわらべうたを用いた作品を求められたのがきっかけであった。

当初“うていーらみや”では、ドイツの小型の軽ハープ、「ライアー」が用いられていた。「ライアー」は、ドイツのシュタイナー教育を通して、心理、精神的な“癒し系”の音楽に用いられてきた楽器である。各種の「ライアー」を用いて、わらべうた研究会の主旨に沿った、沖縄、琉球諸島各地に伝わる豊富なわらべうたを素材にした作品が必要とされていた。それに応じて一般的によく知られた、八重山から奄美に至る琉球諸島のわらべうたの中から、「ライアー」に適した曲を選び、2～4重奏によるアンサンブル用にしたのが第1集の作品群である。

作品完成の過程で、沖縄本島南端の八重瀬町^{ぐしちゃん}具志頭に設立されたばかりの、理想的な音響性を追求した木造のスタジオ『T.tutti』（主人、田前義徳）で、音を確認めながら奏者とともに試行錯誤を繰り返し、アンサンブルの練習ができたことは幸いであった。その中で卓越した沖縄の木工作家、高良輝幸さん夫妻が『沖縄豎琴』制作に意欲をもやし参加されるようになったのである。

「ライアー」あるいは高良輝幸制作の『沖縄豎琴』は、いずれも楽器の大きさによって音域はまちまちであるが、左右の手が向かい合って演奏できるように、弦は半音差の2列に張られ、音域はほぼ3オクターヴである（譜例1.2参照）。基本的には右手が使用する弦の、八長調のディアトニック（ドレミファソラシド）が中心になった調律になっている。

したがって理論的にはどの調にも対応できるとはいうものの、演奏者の右手と左手の指が、半音差で向かい合っているため（ピアノの白鍵が右手、黒鍵が左手に当たる）、楽譜に \sharp や \flat の派生音が多いと演奏が困難になり、調性は自ずと限定されざるを得ない。通常 \sharp や \flat の少ない調性ではじまり、転調、転旋法は近親調に限られてくる。

譜例 1 沖縄豎琴の幹音の音域（右手）



譜例 2 派生音 (#=b 異名同音)の音域(左手)

The score shows two systems of staves. The top system has a Soprano line (Sop.) and an Alto line (Alt.). The bottom system also has Soprano and Alto lines. The notes are written in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a 4/4 time signature. Brackets indicate the range of notes for each voice part.

ダイアトニック音階の利点

—ダイアトニック音階には上下5度関係、3調の五音音階が含まれる—

ダイアトニックは、西洋近代音楽に用いられた長音階を言うが、この7音によるダイアトニック音階（ドレミファソラシド）は、半音を含まない基本的な五音音階（一般的にはドを基音にしたドレミソラドの呂音階。しかし実際にはラを基音にした民謡音階や、ソを基音にした律音階が多い。）の、上下5度関係のトリプル調性である3種の調を含めて記すことができるという利点がある。（譜例3参照）とくに沖縄のわらべうたには、琉球音律以

譜例 3 ダイアトニック音階に含まれる上下5度関係、3調の五音音階

The score illustrates diatonic scales and their relationships. It is divided into two main sections: one for scales based on D (ド) and one for scales based on La (ラ) and So (ソ).
 - The top section shows the D-based scale (ドレミソラド) in three modes: 上属調 (Upper mode), 主調 (呂音階) (Main mode), and 下属調 (Lower mode). It also shows the 5-note scale (ドレミソラ) with notes in parentheses indicating they are omitted. Relationships are shown with dashed arrows: 上方五度調へ (upward fifth mode) and 下方五度調へ (downward fifth mode).
 - The bottom section shows the La-based scale (ラドレミソラ) and the So-based scale (ソラドレミソ). It also shows their 5-note versions and relationships with dashed arrows.
 - A note at the bottom states: "すべてダイアトニックに含まれる音列である" (All these are sequences included in the diatonic).

外の“五音音律”の曲が多く、また実際の音楽では上下五度関連の調への部分的転調が見られるので、派生音記号なしに表記できるディアトニックは便利である（譜例1、2、3）。また琉球音階の上下五度関連について詳しくは「沖縄本島の古謡・ウシデークうた等における琉球音階のトリプル五度調関連を含む音律について」杉本信夫、『南島文化』沖縄国際大学南島文化研究所紀要第10号、1988年発行を参照されたい。

『沖縄竖琴』誕生を讃える

ギリシャ神話で、ミューズの女神が奏でるのは、ギリシャ時代のレリーフによく見られる、現在の弦楽器の祖型といわれた4～7弦の小型のハープ、キタラ（ギターの語源）である。またギリシャ時代に、精神を鎮め子弟の徳育として推奨されたのが、太陽の神アポロンが持つ竖琴であった。

この竖琴を譲り受けた、吟遊詩人のオルフェウスが奏でる詩と竖琴は、動物や植物、万物を魅了したと伝えられている。オルフェウスは亡くした最愛の妻エウリディケに会うために冥土に行き、あらゆる苦難な試練を竖琴によって乗り越え、最後に冥王の許しを得てエウリディケとともに地上に返されるが、途中で妻の方を振り返ってしまったがために、この二人は永遠に引き裂かれてしまうという悲劇である。

時代は現代に至り、人間は自己の利益を求めて相争い、大規模な戦争、軍事産業とともに科学技術が極限にまで発達する一方、人の心はまた極限にまで荒廃に至る。そのアンバランスから精神的障害疾患が増え、求められるようになったのが、心に安定をもたらす静かな“癒し系”の音楽であった。

沖縄のわらべうたによる実践的民間教育を試み、研究してこられた田中美也子さんから、ライアーアンサンブルのための作品を求められ、わたしの1000曲を越えるピアノ曲集『琉球わらべうた万華鏡』の中からアンサンブル用に作曲し提供したのであった。そこで先に述べた木造による理想的な自然の音響のスタジオ『T.tutti』で練習を重ね、演奏者と作曲者が音を確かめ合いながら到達したのが、西洋音楽の響きではない、沖縄の風土、人情に適した独自の竖琴が作れないかということであった。

曲線美の木工技術では右に出る者のいない高良輝幸さんは、かつて日本の手工ギター工房で修業してきた経験があった。彼もわたしたちの演奏に興味を示し、奥さんの典子さん共ども積極的に『沖縄竖琴』の制作に参加することになったのである。

弦楽器の成否は、響板をいかに神業的触感、肌触りによって削るかにあり、これは理屈ではなく、制作者のインスピレーションに頼らざるを得ない。高良夫妻は楽器製作にふさわしい無私の人格を備え、『沖縄竖琴』の制作にはもっともふさわしい人であった。

彼は竖琴本体の材料はすべて、桑の木などの沖縄産にこだわった。また、低音域に使用する巻弦には、気に入った音色が得られるまで極細の金属線を選び、繰り返し根気よく巻き替えるという凝りようである。どうしても楽器の大きさには限界があるので、とくにア

ルトの低音部の音質をよく響かせるには苦勞されたようであった。

『沖繩豎琴』のソプラノ、アルトの音域の中は低音部に広く、ほぼ3オクターヴにわたっているが(譜例1.2参照)、通常使用されるのは従来のソプラノ、アルトの音質の良い音域である。低音部弦は、必要なテノールやバス音を補填する以外に、音量の弱いこの楽器のアンサンブルの響きを豊かにするための、上部倍音が得られる共鳴弦としての役割を兼ねているように思われる。

このような楽器や音楽は、PA回路によって拡大された大音響の電子音に馴らされた“現代人”には物足りないであろうが、『沖繩豎琴』を通して、“聞かされる”音楽から「聞く」音楽への回帰、幽かな自然倍音にも耳を傾けることのできる人間性に回帰したいものである。ギリシャ悲劇が演じられた、あの広大な野外劇場での万余の聴衆が、舞台上で演じられるキトラ(ギリシャの豎琴)の繊細な響きに聞き耳を立てたように。

こうして完成したソプラノとアルトの『沖繩豎琴』は、外形はすでに「라이어」ではなく、むしろ一見、ギリシャの豎琴に近いものになっている。(図版、写真参照)

しかし楽器の上部に2か所、丸く角のように突き出たデザインは高良さんの発案で、沖繩の山原地方に自生するシダ科のワラビやヘゴの新芽を想定したという。

この丸く渦巻いた新芽は、瞬く間に成長するので、その勢いを象徴して、“邪払い”、“清め”の意味もこめられているという。日本では神や身分の高い人を乗せる“輿”の屋根のそり返った4隅の先にこれを付け、“蕨手”と称している。高良さんは宜野湾市の「はごろも祭り」で、琉球の察度王とお妃が前後になってお乗りになる“御輿”(御輿)の復元制作をしたことがあり、その際の“蕨手”の経験が、『沖繩豎琴』のデザインに生かされたのであった。

完成した『沖繩豎琴』のふくよかな形状は、まさに曲線美である。沖繩の文化そのものが、一直線、鋭角ではなくやや曲線なのだ。グシクの城壁も宮殿や民家の赤瓦屋根の稜線でさえも、そして沖繩の人の心もこの曲線がかもしだす優しさにある。

そのような内から湧き出ずる沖繩、古来琉球の時代から伝承されてきた大切な感性と共通する、うたの立ち上がりのやわらかな思い入れ、そして余韻を貴ぶ響きに、この『沖繩豎琴』は応えてくれている。

このようにして、沖繩の伝承音楽を受け継ぐための新しい楽器が誕生したことは喜びに堪えない。モーツァルトの時代に、それまで音量の調整ができない鍵盤楽器から、奏者の鍵盤へのタッチによって、フェルトのハンマーが弦を打ち、自在に強弱がつけられるピアノが作られ始め、ベートーベンに至って現代のピアノに近く完成されていくが、それは作曲家の創造意欲と、すぐれた演奏家、そして楽器製作者の緊密な協力によって可能であった。沖繩の伝承音楽がかつて、すべての人たちの共有の財産であったように、『沖繩豎琴』もまた共有の財産として、新しい沖繩の音楽の発展に役立てていただけることを願っている。

沖縄堅琴演奏図



『T.tutti』でのリハーサル

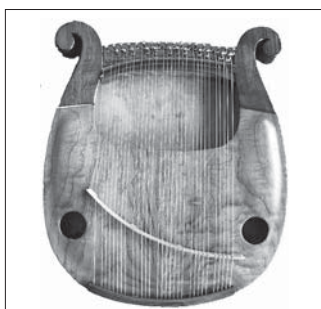


『首里ていーだ』での小コンサート

楽器の写真



たくさんの生命が息づく沖縄の森。
 てるるの詩の木工房の堅琴は沖縄県産の
 桑、伊集、しいの木などの木を使い、
 一つ一つ手作業で制作しています。
 原木を製材し、長い時間をかけ乾燥。
 厳選した木材から楽器に木取り、
 曲げや削りをして成形、磨き。
 丹念に漆を塗り重ねて、
 最後に弦を張って完成します。
 多くの工程の中で木と向かい合い、
 何度も木との対話を繰り返すことを
 大切にしながら
 楽器を作り上げています。



□あやはべる ayahaberu
 ○32弦クロマチック (d[♯]~G)
 450*380mm

『あやはべる』とは琉球の古い言葉
 で美しい蝶を意味します。
 おもろそうしの中では『綾はべる・
 奇はべる』と航海の安全を守るヲナ
 リ神（姉妹神）の化身として表現さ
 れます。子供から初心者まで弾きや
 すいモデルです。



□てるる teruru
 ○39弦クロマチック (d[♯]~C)
 530*450mm

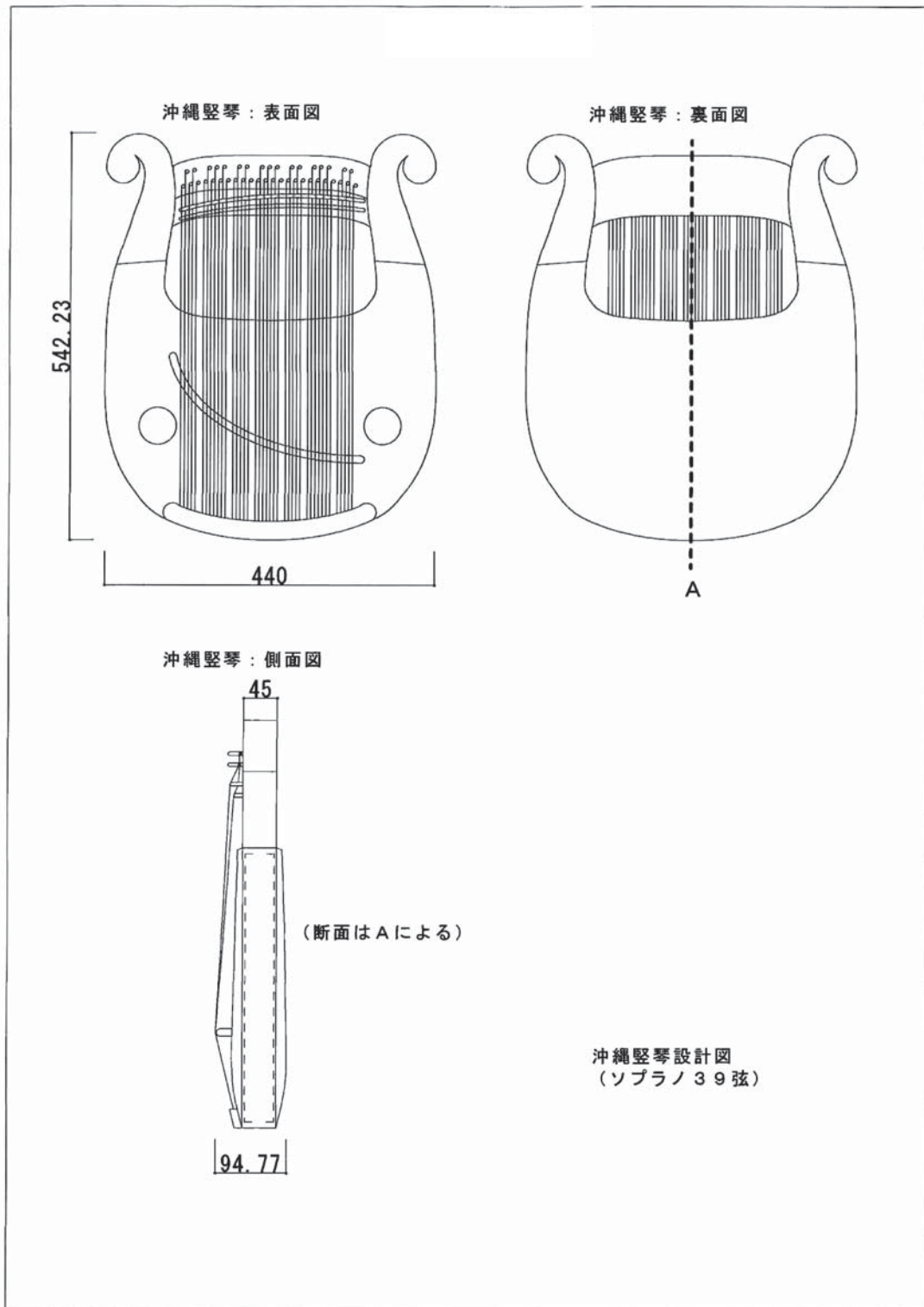
広い音域を持ち、響きの深く豊かな
 堅琴です。琉球の古い言葉で感謝と
 祈りを捧げる神歌『てるる』から
 名前をいただいています。
 ソロ演奏にも適した上級者向けのモ
 デルです。



□ももね momone
 ○39弦クロマチック (d[♯]~C[♯])
 650*470mm

大地に根を張るガジュマルの木の一
 ように。豊かな倍音と響きを持つよう
 に。『百音・ももね』と名付けまし
 た。アンサンブルに最適なテナーア
 ルトの堅琴です。

沖縄竖琴設計図



『沖繩豎琴』のための作品群について

『沖繩豎琴』第1集は「ライアー」を用いていたころの作品である。「ライアー」は本来ヨーロッパの楽器であるため、近代的なピアノのように、低音域から高音域まで平均的に音色が統一されていて、ハーモニーの変化や多声部音楽のような構成的な表現によるアンサンブルには向いているが、単旋律の楽器が持つ、特色ある立ち上がりの音や、思い入れ、余韻の響かせ方には必ずしも適しているとは言えない。

ピアノの前身であったバロック時代の小音量の「クラヴィコード」などには、奏者の鍵盤への押さえ込みによって、音色に思い入れがこめられる余地があったが、音域の拡大、ダイナミックな音量と機能が求められた、楽器の近代化の流れの中でそれらは捨て去られてしまったようだ。

したがって第1集は、沖縄わらべうた研究会の「ライアー」によるアンサンブルの時代、2006年～2009年の作品なので、沖縄のわらべうたを素材としながらも、西洋的なアンサンブルを目的とした多声部的、構成的な曲になっている。しかも「ライアー」は西洋の近代楽器とはいえ、本来はドイツのシュタイナー教育を通じた“癒し系”の音楽にふさわしい楽器として用いられてきたので音量はきわめて弱く、自ずと表現は限られてくる。

そこで、音量は少ないながらも、沖縄のわらべうたがもつ本来のうつくしさ、優しさ、“思い入れ”が表現可能な楽器として、『沖繩豎琴』による再生が求められるようになったのである。現在では、「ライアー」を想定した第1集の作品も、演奏にはテクニック上の問題はないので『沖繩豎琴』が用いられている。

第2集以降の作品は、こうした『沖繩豎琴』の特性をも想定して作曲したもので、現在総計57曲に達している。以下にその全曲の曲名と採集地、作曲年月日を示すが、とくに第3集の最後の56曲目の「アポロ讃歌」と57曲目の「さくら さくら」の2曲は、ギリシャの豎琴の流れを引く『沖繩豎琴』の“2152年ぶりの里帰り”として、2014年1月14日にギリシャのアポロ神託の地であるデルフィを訪ね、アポロ神殿の前で『沖繩豎琴』の発展を祈願し演奏してきたものである。楽器は高良輝幸制作の、携帯に便利な小さな9弦の“コトの葉”（ソプラニーノ）を使用し、この地で発掘された、紀元前138年ごろのものといわれる世界最古の石碑に残された楽譜から抽出したギリシャ旋法に調弦し、「アポロ讃歌」の詩に付されていた古代ギリシャの原歌を『沖繩豎琴』に翻曲した作品である。

詳しくは次回『沖繩豎琴』完成への経過と作品集（後）の『アポロ讃歌』と『さくら さくら』紀行の項で報告したい。

次に示す『沖繩豎琴』第1集、第2集、第3集の全曲作品一覧では、便宜上作曲年月日順に並べてあるが、演奏上は、調性やリズムの変化を勘案してどの曲を選んで演奏されてもよい。また作品楽譜に原曲のわらべうたの歌詞が付されている場合、奏者がうたいながら演奏されると、“うた三線”^{さんしん}の伝統がある沖縄ではとくによろこばれ、適宜に前奏や間奏

を曲の中から選び出し付加されるとよい。

沖縄わらべうた研究会

“うていーらみや”の主な『沖縄縦琴』公演と演奏曲

1. ナーサリーライム（母になる方へ）子守りうたコンサート

首里ていーだ（平成23年9月20日）

かみや母と子のクリニック（平成23年9月23日）

名護市公民館中ホール（平成23年10月16日）

八重山病院（平成23年10月29日）

ゆいクリニック（平成24年1月30日）

演奏曲目

「ねんねぐぐワワシー」「ててィィてんさぐぬぬ花」「我が守むららぎ」「ここねねままぬぬ父しゅうや」「賀が数かじの子守しゅううた」
「山やま川がわの子守しゅううた」

2. 「全国わらべうたの会研修会」於：東京都三鷹市「明星台幼稚園」（2013.11.16）

「沖縄縦琴」演奏会 Sop.田中美也子 Alt.木下絵美

演奏曲目

「コールサイン」「ねんねぐぐワワシー」「ここねねままぬぬ父しゅうや」「賀が数かじの子守しゅううた」「月つきぬぬ美かいしゃ」

『沖縄縦琴』アンサンブルのための全曲一覧

第1集

第1集は、当初、一般によく知られた沖縄のわらべうたから「ライアー」のアンサンブル用に、器楽曲としてやや構成的な2分3部の曲にしたものであるが、『沖縄縦琴』が完成したので、演奏上の楽器は「ライアー」にこだわることはない。

曲名	場所	作曲年月日	備考
1. ねんねぐ <small>ぐ</small> ワ <small>ワ</small> シー	奄美 徳之島	06.6.25	美しい基本五音音階の子守歌 2部 各パートにdiv.あり
2. て <small>て</small> ィ <small>ィ</small> んさぐぬ <small>ぬ</small> 花	沖縄一般	06.6.26	2部 アルトにハーモニックスあり
3. こ <small>こ</small> ー <small>ー</small> じゃ <small>ん</small> 馬 <small>ま</small> ぐ <small>ぐ</small> ワ <small>ワ</small> ー	那覇	06.6.28	2部 アルトに3和音あり
4. わ <small>わ</small> が <small>が</small> 守 <small>む</small> ら <small>ら</small> ぎ	宮古 多良間島	06.6.29	2部 半音階による伴奏 sop.にオクターヴのdiv.
5. こ <small>こ</small> ね <small>ね</small> ま <small>ま</small> ぬ <small>ぬ</small> 父 <small>しゅう</small> や	八重山 石垣島	06.6.30	3部に分かれ、それぞれにdiv.あり
6. は <small>は</small> な <small>な</small> か <small>か</small> じ <small>じ</small> ま <small>ま</small> や <small>や</small> ー 花 <small>はな</small> ぬ <small>ぬ</small> 風 <small>かぜ</small> 車 <small>くるま</small>	沖縄一般	06.7.9	2部 軽快なテンポの曲

- | | | | | | |
|----|--------------------------------------|--------|---------|---------|--------|
| 7. | 賀 ^か 数 ^{かじ} の子守うた | 糸満市賀数 | 08.9.20 | solo | 2声部 |
| 8. | 山川 ^{やまが} の子守うた | 南風原町山川 | 08.9.21 | 3部にdiv, | (独唱付加) |

第2集

『沖縄豎琴』の完成を祝い、「うて^てィーらみや」アンサンブルのためのコールサイン（1. 2バージョン）を作曲。そして『沖縄豎琴』のための初心者用Exerciseを作成。

このExerciseリズムパターンの1～4は、続けて組曲として演奏されるとよい。

- | | | | | |
|-----|--|---------|---------|--------------------|
| 9. | いった一子とウ | 浜比嘉島 比嘉 | 11.3.29 | 高良輝幸さんのお母さんの御霊に捧げる |
| 10. | て ^て ィーち 汀間 ^{ていま} | 浜比嘉島 比嘉 | 11.3.29 | 屋号づくし 同上 |
| 11. | 飛 ^{とび} 衣装 ^{んす} 舞 ^め 衣装 ^{んす} | 浜比嘉島 比嘉 | 11.3.29 | 羽衣伝説のうた 同上 |
- 9.10.11は、故高良八重子さんの四十九忌法事の日に霊前で田中美也子さんによって演奏（4月/27日）
- | | | | | |
|-----|------------------------------------|---------|----------|----------------------|
| 12. | コールサイン（1） | 八重山 竹富島 | 12.7.6 | 2部にdiv. alt. にトレモロあり |
| 13. | チンナンモー | 国頭村 安田 | 12.12.18 | 2部のカノン カタツムリ競争 |
| 14. | コールサイン（2） | 八重山 竹富島 | 12.12.27 | バージョン（1）より少し長い |
| 15. | あ ^あ った子 ^こ とウ | 国頭村 安田 | 12.12.14 | 2部 眠り比べ |

『沖縄豎琴』のためのExercise（リズムパターン1～4、初心者用）

- | | | | | |
|-----|-----------|---------|---------|--|
| 16. | リズムパターンの1 | 首里 | 13.1.12 | 2部 シーヤーブー ^{みるく} 弥勒の行列 |
| 17. | リズムパターンの2 | 沖縄一般 | 13.1.13 | 2部 三村 ^{みむら} ぬ姉 ^{あんぐ} 小 ^{わー} 達 ^{たー} |
| 18. | リズムパターンの3 | 八重山 西表島 | 13.1.14 | 3部 ホイヤヨラ ショッカー |
| 19. | リズムパターンの4 | エイサー | 13.1.16 | 3部 庭遊 ^な び ^{あし} |
| 20. | 糸満の子守歌 | 糸満 | 13.4.11 | 2部 終わりの部分にsop.div. |

第3集

第3集では、「うて^てィーらみや」のメンバーと2008年から2010年にかけて共同採集をした、本部町備瀬、桃原、具志堅のわらべうたを多く用いた。とくに具志堅は「うて^てィーらみや」主宰者の田中美也子さんの出生地で、高齢者が字人口の53.4%、内100歳以上が11人（2009年現在）というおどろくべき集落である。この地の伝統的な“元気婆ちゃん”たちのパワーに支えられながら感動をもって採集できたのであった。（詳しくは『南島文化』沖縄国際大学南島文化研究所紀要第32号、33号参照のこと。）これに先に述べた56「アポロ讃歌」と57「さくら さくら」が付加されている。

- | | | | | |
|-----|--|-----|---------|--------------------|
| 21. | べーべーぬ草刈 ^{くさかい} いが | 具志堅 | 13.4.13 | 終わり部分3部、独特のハヤシが可愛い |
| 22. | 新 ^{しん} 里 ^り ぬ いーみんち | 具志堅 | 13.4.16 | 4部 めずらしい定拍3拍子の曲 |
| 23. | ひとふた て ^て ィらじゅ（1） | 具志堅 | 13.4.17 | 2部 複調的 |

24.	けんくる けんくる (1)	具志堅	13.4.18	2部	リズムカルでおもしろい
25.	てーよ てーよ てー	具志堅	13.4.21	2部	sop. div.
26.	ンミーが ンミーが	桃原	13.4.23	2部	譜読みとリズムバージョンの練習
27.	めんびら うぐち 前坂 降り口	備瀬	13.4.24	2部	sop. div.
28.	ゆなんみ ながはま 与那嶺 長浜ぬ	備瀬	13.4.25	2部	毬つきうた
29.	あがりあか 東 明がりば	備瀬	13.5.1	2部	sop. div. 混合拍子の練習
30.	わったー きーふーじょー 我達タンメー木宝蔵	桃原	13.5.5	2部	alt. 途中で重音並行あり
31.	がらきー イエー 烏	備瀬	13.5.6	2部	毬つきうた
32.	とくじう さとウ 妻 居らぬ里や	備瀬	13.5.7	2部	毬つき数えうた
33.	う びー 此ぬ屁 (1)	具志堅	13.5.11	2部	屁をした人を当てるうた
34.	うー あ 上ち上がりば (1)	具志堅	13.5.15	2部	gliss.あり
35.	だれ そろ 誰かさんが揃たら (1)	具志堅	13.5.16	2部	8分の6拍子
36.	けんくる けんくる (2)	具志堅	13.5.21	2部	リズムカル
37.	ていんうてい いちゆまん 天ら落ていていぬ糸 満ぐワー	具志堅	13.6.1	2部	糸満海人のこと
38.	とくぐち まちはた 渡久地町端 (1)	具志堅	13.6.4	2部	リズムカル
39.	あか しる 赤なび 白なび	備瀬	13.6.9	2部	赤、白の蛾の一種
40.	あかぬぬ 赤布ペーリ・ちゅんびたーび	備瀬	13.6.11	2部	gliss.多い
41.	ひとふた ていらじゅ (2)	具志堅	13.6.13	2部	お手玉
42.	お お おひとつ落として おさら	具志堅	13.6.16	2部	重音 お手玉
43.	あんまー まー いったー母 何処かいが	具志堅	13.6.19	2部	子守うた
44.	とくぐち まちはた 渡久地町端 (2)	具志堅	13.6.21	2部	町の食べ物の匂い
45.	く びー 此ぬ屁 (2)	具志堅	13.6.28	2部	屁をした人を当てるうた
46.	うー あ 上ち上がりば (2)	具志堅	13.7.4	3部	蟬に呼びかける
47.	やすらぎー1 (同型反復初級練習用)	玉城村仲村渠	13.7.8	2部	アマウエーダぬクエーナより
48.	やすらぎー2 (同型反復初級練習用)	風夢譚より	13.7.9	2部	4分の1音調弦
49.	シーグヘイ	具志堅	13.7.15	2部	重音
50.	だれ そろ 誰かさんが揃たら (2)	具志堅	13.7.15	2部	重音
51.	がじゃん びら 蚊ん坂から	具志堅	13.7.29	2部	毬つき
52.	わー だ だ 我が抱ち抱ち	具志堅	13.8.1	2部	重音 子守うた
53.	ゾーユー ゴーユーハー	宮古狩俣	13.8.14	2部	重音 ぶらんこ漕ぎ
54.	んま うわから母 ホイヤ	宮古多良間	13.9.16	2部	リズムが面白い子守歌
55.	ついきい かい 月ぬ美しや	八重山 登野城	13.9.23		美しい夜の子守歌
56.	アポロ讃歌	ギリシャ デルフィ	14.1.6		世界最古の楽譜石碑より再現
57.	さくら さくら	日本 江戸時代	14.1.7		子供用の箏うたより

『沖縄竖琴』抜粋作品集（前）

第1集より

- | | | |
|----------------|----------|---------------------------------|
| 1. ていんざぐぬ花 | 沖縄一般 | 「 ^{からやー} 瓦屋節」の前奏の音型による |
| 2. こーじゃー馬ぐわー | 那覇 | 長三和音の和音が生きる |
| 3. ぼがむすらぎ | 宮古 多良間島 | すべて半音階による伴奏 |
| 4. やまがー山川の子守うた | 南風原 | みごとに美しい |
| 5. ねんねぐわしー | 奄美 徳之島 | 南島のやさしさが見事に |
| 6. こねまぬ父や | 八重山 白保ほか | 和声的、対位的楽曲 |
| 7. かじまやー花ぬ風車 | 沖縄一般 | テンポよく掛け合う曲 |

第2集より

- | | | |
|------------------------|---------|---------------------------------|
| 8. コールサイン（2） | 八重山 竹富島 | “うていーらみや”のテーマ曲 |
| 9. Exercice リズムパターン（1） | 首里 | ^{みるく} 弥勒を先頭にこどもたちの行列 |
| 10. リズムパターン（2） | 沖縄一般 | ^{あんぐりたー} 三村ぬ姉達はずんだリズムで |
| 11. リズムパターン（3） | 西表島 祖納 | ホイヤヨラ ショッカー |
| 12. リズムパターン（4） | 沖縄 | エイサー |

第1集より

1. ていんさぐぬ花

沖縄一般
採譜作曲 杉本信夫

♩ = 72

Sop. *mp* (Har.)

Alt.

ていんさぐぬ はなや

ちみさちに すーみー ていうやぬゆーしーぐーとやー

ちむにすーみーり

p

mp

mp

The image shows a musical score for a piece titled 'Okinawa Vertical Harp'. It consists of three systems of two staves each. The first system starts with a treble clef and a dynamic marking of *mp*. The second system shows a change in time signature from 3/4 to 2/4. The third system includes a *rit.* (ritardando) marking and a *pp* (pianissimo) dynamic marking, along with a circled 'o' labeled '(Har.)' indicating a harmonic effect. The score concludes with a double bar line.

2006.6.26

てィんさぐぬ花^{はな}や 爪^{ちみさち}先に染^すみてィ 親^{うや}ぬ寄^ゆし言^{ぐとつ}や 肝^{ちむ}に染^すみり

沖縄でもっともよく知られたうたであるが、それはなんと前小楽節 a (4小節) + 後小節 a' (4小節)、大楽節 (8小節) 1つの琉球音階できていて、その簡潔なスタイルの小一部形式の曲の例は、他の日本のわらべうたにも全く見られない、きわめてめずらしい例である。それでいて沖縄の伝承音楽としても全く不自然さがないのは何故であろうか。それはかつて沖縄 (琉球国) が、南北西太平洋沿岸地域の国々と自主的に海外交易をすることによって、様々な民族の文化の影響を受け、今言う独特の“琉球文化”の華を咲かせてきたからであろう。

曲の前奏は琉球王朝音楽 (古典音楽) の「瓦屋節」の“うた持ち”の部分を用い、また伴奏にはそこから抽出した音型を連続して繰り返し、「てィんさぐぬ花」の主旋律とポリリズム的に組み合わせた。原曲はピアノ曲集『琉球わらべうた万華鏡』(1070曲)のごく初期 (1960年代後半) の沖縄作品である。ソの弦の2分の1のハーモニクスがバックに控えめな効果を生み出している。

2. コーじゃー^{んま}馬ぐワ

沖繩 那覇
採譜作曲 杉本信夫

$\text{♩} = 96$

Sop. *mp* コーじゃーんまぐワ かたばるかいど んまぬくらうー してハハハ

Alt. *mp*

mf

poco meno mosso
rit. *p*

a tempo
mf

rit. *p* *poco a poco a tempo*

The musical score is written for a ukulele. It begins with a treble clef and a key signature of one flat (F major). The tempo is marked with a 'rit.' (ritardando) and a dashed line. The dynamics are marked as *mp* (mezzo-piano), *p* (piano), and *pp* (pianissimo). The piece concludes with a double bar line.

2006.6.28

こーじゃー^{んま}馬ぐわー ^{かたばる} 潟原るかいど ^{んま} ^{くら} 馬ぬ鞍うーしてイ
 ハイ ハイ ハイ

那覇の潟原^{かたばる}は広い塩田地帯であった。農村から農産物を運び、塩と交換して帰っていく麴色をした小型の馬を見て子供たちが囃してうたったそうである。この曲ももとは初期の沖縄作品で、はじめて伝承音楽に西洋の長三和音と短三和音が抵抗なく使えた思い出がある。

3. ばが^む守らぎ

宮古 多良間島
採譜作曲 杉本信夫

♩=90

Sop. *mp* ばが む ら ー ぎ う え ー が ら し ゃ ば ー ヨ ー ホ イ あ ー に ー が

Alt. *mp*

く ー ー ぎ う え が ら し ゃ ば ー ヨ ー ー ホ イ ヤ ー ラ

poco rit. -----

poco più mosso e con moto
div.

mf

mf

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of five systems of music. The first system includes vocal lines for Soprano and Alto, with lyrics in Japanese. The piano accompaniment is marked *mp*. The second system continues the vocal lines and piano accompaniment. The third system shows the vocal lines and piano accompaniment. The fourth system includes a *poco rit.* marking and a dashed line indicating a tempo change. The fifth system features a *poco più mosso e con moto* marking, a *div.* (divisi) instruction for the vocal lines, and a *mf* (mezzo-forte) dynamic marking for both the vocal and piano parts.

The image displays a musical score for 'Okinawa Uke' in two systems. The first system consists of two staves: the upper staff is in treble clef and the lower in bass clef, both in a key signature of one flat. The upper staff features a melodic line with a slur over the first four measures, followed by a 'rit.' marking and a dashed line. The lower staff provides a rhythmic accompaniment with eighth notes. The second system also has two staves. The upper staff begins with a slur, followed by a 'Tempo I' marking and a 'p' dynamic. The lower staff includes markings for 'poco a poco a tempo rit.' and 'p'. The third system continues the two-staff format with a melodic line in the upper staff and accompaniment in the lower staff. The fourth system concludes with a melodic line in the upper staff ending in a fermata and a 'pp' dynamic, and a bass line in the lower staff ending with a fermata.

2006.6.29

ぼむらぎ うえーがらしゃば ヨーホイ あにくが漕ぎ うえーがらしゃば ヨーホイヤーラ

アルトの伴奏は終始、沖縄壺琴の半音階の練習になっている。

やまがー
4. 山川の子守うた

南風原 山川
採譜作曲 杉本信夫

I
Sop. *mp* あばーとあば と

II
mp *p*

Alt.
mp *p*

I
むい たていらわ かーーらや ぬ ゆみなさや
2番

II
しーみんでいきらち そ いりよ

Alt.
じたぐん さばぐん こていますんど へいよー〜ヨー
とーんやまどん あつ かさや へいよー〜ヨー

I
カマデーグ
な　く　な　よ

II

mp

I
あ　ば　ー　と　あ　ば　と　む　い　た　て　ら　わ　　な　ん　じ　ゃ　ん　く　が　に　ん

II

I
さ　し　み　ら　や　　か　ら　や　ぬ　ぬ　ち　じ　や　ぬ　　ゆ　み　な　さ　や　　ー

II

poco rit. - - - - -

poco rit. - - - - -

poco rit. - - - - -

I
II

〜イヨ〜ヨ〜な〜くなよ

a tempo
a tempo
a tempo
mp
mp

I
II

mp rit. ————— *molto* *p* ————— *pp*
rit. ————— *mp* ————— *molto* ————— *pp*
rit. ————— *mp* ————— *pp*

1. あばーとウ あばーとウ(姉さんが) 守いたてイらわ 瓦屋ぬ嫁なさや
 下駄ぐワん 草履ぐワん 買ってイ捌ますんど ハイヨー ハイヨー カマデーグワー
2. あばーとウ あばーとウ 守いたてイらわ 墨ん出来らち 精入りよ
 唐ん大和ん 歩っかさや ハイヨー ハイヨー 泣くなよ
3. あばーとウ あばーとウ 守いたてイらわ 銀ん黄金ん(金銀の簪) 刺しみらや
 瓦屋ぬぬ貫木屋ぬ 嫁なさや ハイヨー ハイヨー 泣くなよ

何故にこのような心洗われるような美しい旋律（音楽）が生まれ、伝えられてきたのだろうか。山川が貧しい部落であったから故、生きて行くことに人の心は無限にゆたかにならざるをえなかったに違いない。“あばー”とは、百姓の娘の呼称である。

5. ねんねぐワシー

(徳之島の子守歌)

奄美 徳之島
採譜 久保けんお
作曲 杉本信夫

♩=86

Sop. *p* ねんねぐワシー - ねんねぐワシー ねんねぐワシゆんちどウ なきゆらや

Alt. *p*

ねんねぐワシー - ねんねぐワシー ねんねぐワシー - よ

mp

The first system consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a melodic line with a long slur over the first two measures. The lower staff is in bass clef and provides a rhythmic accompaniment with chords and single notes.

The second system continues the piece. The upper staff has two measures of rests followed by notes, with a dynamic marking of *mp*. The lower staff has a dynamic marking of *mf* and features a melodic line with a slur.

The third system shows the continuation of the melodic and accompaniment lines. The upper staff has a long slur over the first two measures, and the lower staff has a similar slur.

The fourth system features a dynamic marking of *mf* in the lower staff. The upper staff continues the melodic line, and the lower staff has a more active accompaniment with eighth notes.

The fifth system concludes the page with further melodic and accompaniment lines. The upper staff has a long slur, and the lower staff features a complex accompaniment with many sixteenth notes.

Musical score for two staves in 3/4 time. The key signature has two flats (B-flat and E-flat). The score consists of two staves. The upper staff begins with a half note G4, followed by a quarter rest, then a quarter note G4, and a quarter note F4. The lower staff begins with a quarter note G3, followed by quarter notes F3, E3, D3, C3, and B2. Dynamics are indicated by *mf*, *mp*, *p*, and *pp*. A *rit.* (ritardando) is indicated by a dashed line. The piece concludes with a double bar line.

2006.6.25

1. ねんねぐワシー ねんねぐワシー ねんねぐワしゅんちどウ [しようと] ^{な-}泣きゆらや [泣くんだね]
ねんねぐワシー ねんねぐワシー ねんねぐワシーよ
2. ねんねぐワシー ねんねぐワシー ^{あんまー ちー}母が乳から ^{ちーぬ}乳飲ましゃ
(以下同様)
3. ねんねぐワシー ねんねぐワシー ^{しだ かじ}涼か風ぐワぬ ^ふ欲しゃらばや [欲しいなら]
(以下同様)
4. ねんねぐワシー ねんねぐワシー ^{しちやいじ}アダンぬ下出 ^{かじあび}風叫ら [風呼ぼう]
(以下同様)

もっとも尊敬する採集採譜者の久保けんお先生は、奄美の喜界島荒木の御出身、鹿児島で不遇の生涯を閉じられた。この美しい曲は久保けんお先生の御霊に捧げたい。

6. こねまぬ父や^{しゅう}八重山 登野城
採譜作曲 杉本信夫

♩=66

Sop. 

Alt. 

















こねま [坊や] ぬ父^{しゅう}や ずま^{ずま}かいどおったーねー うびら [広い] 田^だおーり [いらっしやって] 俵^{たーらまー}廻しよ
うり

ホ イ ヤー ヨー — ホ イ ヤー ヨー — ホ イ ヤー ホ イ ヤー ヨ ゆっくり

I *p* *rit.* *p*

II *p* *rit.* *p*

mp *rit.* *p*

p *rit.* *p* ゆっくり

mp *rit.* *p*

2006.6.30

しんた 後田ぬシラ [稲叢] たか な 高シラ為しより まい た 前田ぬシラ うふ な 大シラ為しより
 ホイヤーヨー ホイヤーヨー ホイヤーホイヤーヨー

同類のうたは、竹富島、石垣島の大浜等にもあり、この子守り歌は父や母が昼間働いておられる様子をうたっているので一名「昼の子守歌」とも言われている。ハヤシの“ホイヤー ホイヤーヨー”の最後がゆっくりとポルタメントでずり上がり延ばされるところ（沖縄竖琴の楽譜では、最後のゆっくりした装飾音符の部分）は、得も言われぬ美しさである。

初めて沖縄に渡った1964年、竹富島の幼い上勢頭朋子ちゃんがうたってくれた歌詞は“こねまぬ泣くかアンマン泣きどしー こねまぬぼろ笑た アンマンぼろ笑いどしー ホーイホイヤーヨー”で、最後のポルタメントはまさに人生のすべてのしあわせ、美の極致を聴く者に感じさせるものであった。

かじまやー
7. 花ぬ風車

沖縄一般
採譜作曲 杉本信夫

軽快なテンポで

Sop. *mf* はなーぬ かじまややスリ かじちーりーてーー みぐーる

Alt. *mf*

mp チントウンテンマンチンタン うねたりすぬめーうみかきれ

p

mp

mp

mp

mf

f

rit. - - - - -

p

mf

a tempo

The musical score consists of two staves. The top staff is in treble clef and the bottom staff is in bass clef. The piece begins in 5/4 time, then changes to 4/4 time. The top staff features a melodic line with a fermata over the first measure, followed by a series of eighth notes and a final measure with a fermata. The bottom staff features a rhythmic accompaniment of eighth notes, also ending with a fermata. Dynamic markings include *mp* and *p* in both staves, and a *rit.* marking with a dashed line in the top staff. The tempo marking *a tempo* is also present in the top staff.

2006.7.9

はな かじまやー かじち みく
花ぬ風車や 風連りてイ廻る
チントウン テントウン マンチンタン
うねたり主ぬ前 御見かきれ

わ み どっしち あし うり
我身や友達連れて 遊ぶ嬉しや
チントウン テントウン マンチンタン
うねたり主ぬ前 御見かきれ

はな かじまやー くじゅうしち う ゆうえ
花ぬ風車や 九十七ぬ御祝
チントウン テントウン マンチンタン
うねたり主ぬ前 御見かきれ

軽快なテンポの曲。数え年で97歳を迎えると、子どもに還るといったとえで、風車を持って村をあげての盛大な「カジマヤーの祝い」が催される。曲は風車がぐるぐると廻る様を表している。

第2集より

8. 「うてーらみや」のコールサイン

竹富島 東京芸大民族音楽ゼミ採譜より
作曲 杉本信夫

♩=78

Sop. *mp*
ねんねんしゃーどゥーよ ちっちーのまーすーよ

Alt. *mp*

— — ホイ ヤ ヨ —

mp *mp*

p *mp* *mp*

The musical score is written for Soprano (Sop.) and Alto (Alt.) voices with piano accompaniment. It begins with a tempo marking of ♩=78. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 4/4. The Soprano part has lyrics: "ねんねんしゃーどゥーよ ちっちーのまーすーよ". The Alto part has lyrics: "— — ホイ ヤ ヨ —". The piano accompaniment consists of two staves (treble and bass clef). Dynamics include *mp* (mezzo-piano) and *p* (piano). The score features various time signature changes: 4/4, 3/4, 2/4, and 3/4.

The image shows a musical score for 'Okinawa Uke' in G major. It consists of two systems of staves. The first system has a treble and bass staff. The treble staff starts with a 2/4 time signature, changes to 4/4, and then back to 2/4. It features a melody with a 'poco rit.' marking and dynamic markings of 'mp' and 'mp'. The bass staff starts with a 2/4 time signature, changes to 4/4, and then back to 2/4. It features a bass line with a 'p' marking and a 'mp' marking. The second system also has a treble and bass staff. The treble staff starts with a 2/4 time signature, changes to 3/4, and then back to 2/4. It features a melody with a 'p' marking and a 'pp' marking. The bass staff starts with a 2/4 time signature, changes to 3/4, and then back to 2/4. It features a bass line with a 'rit.' marking and a 'pp' marking.

2012.12.27

1. ねんねん しゃーどーよ [しなさいよ] ^{ちっちー} 乳飲ますよ ホイヤーヨー
2. ねんねん しゃなから [しなかつたら] ^{ちっちー} 乳飲ますんよ ホイヤーヨー
ねんねんしーよ コッコーマ [かわいい子]

「うていらーみや」のために作曲したコールサインの(2)で、原曲は東京芸大民俗音楽ゼミの採譜を用いた。

沖縄竖琴のためのExercise

9. リズムパターン (1)

(シーヤープー ^{みるく} 弥勒)首里
作曲 杉本信夫

$\text{♩} = 70$

Sop. *mp* *sempre semi stacc.*

Alt.

mf

mp

シ ヤー プ ー シ ヤー プ ー

The image displays a four-system musical score for a piece titled 'Shi-yee-poo Mee-min-mee'. The score is written for piano and consists of two staves (treble and bass clef) per system. The first system features a melodic line in the treble clef with a long slur and a bass line with eighth-note accompaniment. The second system begins with a piano (*p*) dynamic marking. The third system starts with a mezzo-piano (*mp*) dynamic marking and includes a fermata over the final measure of the treble staff. The fourth system concludes with a *rit.* (ritardando) marking and a fermata over the final measure of the treble staff. The piece ends with a double bar line.

2013.1.12

沖縄独特のリズムの特徴を配置した4曲のリズムパターン組曲。(1)は、^{みるく}弥勒行列で可愛く着飾った
幼い女の子がうたうハヤシの“シーヤープー ミーミンメー”のイメージ。

10. リズムパターン (2)

みむら あん たー
(三村ぬ姉ぐわー達より)

沖繩

作曲 杉本信夫

$\text{♩} = 132$ ($\text{♩} \approx \text{♩} \approx \text{♩}$)

Sop. *mp*

Alt.

mf やしういすなよー

むとつかんじゅんどー *p* *mp*

mf *mp*

2013.1.13

すんじゃ かにくすく いちまん みむら
 潮平 兼城 糸満 とウ 三村
 みむら あんぐわたー す いゆう ばなし
 三村ぬ 姉達 が 揃りとてイ 魚売い話
 やしうい むとウ
 安売いすなよ 元金かんじゅんど [損するよ]

沖縄風はずんだテンポの“舞やー”のリズム（ $\text{♪} \frac{1}{2} \text{♪} \frac{1}{2} \text{♪}$ ）の練習。「三村ぬ姉小達」の“安売すなよ
 元金かんじゅんどー [損するよ]”のリフレインのハヤシの部分を用いている。

11. リズムパターン (3)

(ホイヤヨーラショッカー 祖納の子守うた)

西表島 祖納
作曲 杉本信夫

♩=76

I
Sop. *mp* gliss. gliss. *mp*
ホイヤヨーラショッカー ホイヤヨーラショッカー ばん ちゃぬ アン マ ずまかいどおつたる

II *mp*

Alt. *mp*

ね うふやまかいどー おつたるね うふやまから

たむぬぼかたぎよーり あつつアぬゆやーこねまぬよいすん

ちよ
mf
mf
mf
gliss.
gliss.
gliss.

ホイヤヨラショツカー ホイヤヨラショツカー

Detailed description: This system contains the first three staves of music. The top staff is a vocal line with lyrics 'ちよ' and 'ホイヤヨラショツカー' repeated. It features glissando markings and a mezzo-forte (mf) dynamic. The middle staff is the right-hand piano accompaniment, also marked mf, with glissando markings. The bottom staff is the left-hand piano accompaniment, marked mf.

mp
gliss.
mp
mp

Detailed description: This system contains the next three staves. The top staff is the vocal line, marked mp, with a glissando marking. The middle staff is the right-hand piano accompaniment, marked mp, with a glissando marking. The bottom staff is the left-hand piano accompaniment, marked mp.

p

Detailed description: This system contains the next three staves. The top staff is the vocal line, marked p. The middle staff is the right-hand piano accompaniment. The bottom staff is the left-hand piano accompaniment.

p
mp

Detailed description: This system contains the final three staves. The top staff is the vocal line, marked p, with a mezzo-piano (mp) dynamic marking later in the system. The middle staff is the right-hand piano accompaniment. The bottom staff is the left-hand piano accompaniment.

mp
gliss.
gliss.
gliss.
gliss.

This system contains three staves. The top staff is a treble clef with a melody starting on a quarter note, followed by eighth notes, and ending with a whole note. The middle staff is a treble clef with a glissando line over a series of eighth notes. The bottom staff is a bass clef with a glissando line over a series of eighth notes.

p
p
p

This system contains three staves. The top staff is a treble clef with a melody of quarter notes. The middle staff is a treble clef with a series of chords. The bottom staff is a bass clef with a series of chords.

rit. ppp
rit. ppp
rit. ppp

This system contains three staves. The top staff is a treble clef with a melody of quarter notes, ending with a long note. The middle staff is a treble clef with a series of chords. The bottom staff is a bass clef with a series of chords.

ばんぢゃ あんまー ずま
我家ぬ母 何処かいど おったるね
うふやま
大山かいど おったるね
うふやま たむぬ かた
大山から薪木ば 担ぎようり
あつア ぬ こねま よい
明日ぬ夜や 坊ぬ祝すんちよ
ホイヤヨラ ショッカー ホイヤヨラ ショッカー

私の家のお母さんはどこへ行かれたのかねえ 大きな山へ行かれたよ 大山から薪木を担がれて 明日の夜は坊やのお祝いよ ホイヤヨラ ショッカーは薪木を担ぐときのかけ声で、グリッサンドを用いてリズムをつけている。

12. リズムパターン (4)

な-あし
(庭遊び 各種出し物)

作曲 杉本信夫

$\text{♩} = 60$
accel.

I
Sop. *mf*
II *mf*
Alt. *mf*

f
f
f

poco più mosso
p
p

First system of musical notation. It consists of three staves: two treble clefs and one bass clef. The top two staves are marked with *mp*. The bottom staff is marked with *mp*. The music features eighth-note patterns in the upper staves and a steady eighth-note accompaniment in the bass staff. A *rit.* marking is placed above the final measure of the system.

Second system of musical notation. It consists of three staves: two treble clefs and one bass clef. All three staves are marked with *f*. The music features a melody in the upper staves and a steady eighth-note accompaniment in the bass staff. A *a tempo* marking is placed above the first measure of the system.

Third system of musical notation. It consists of three staves: two treble clefs and one bass clef. All three staves are marked with *f*. The music features a melody in the upper staves and a steady eighth-note accompaniment in the bass staff.

Fourth system of musical notation. It consists of three staves: two treble clefs and one bass clef. The tempo is marked *poco più mosso* with a metronome marking of ♩ = 64. The music features a melody in the upper staves and a steady eighth-note accompaniment in the bass staff. Dynamic markings include *p* and *mp*. A *p* marking is placed above the first measure of the top staff, and *mp* markings are placed above the first measure of the middle and bottom staves.

First system of musical notation. It consists of three staves: a treble staff with a melodic line, a middle staff with a piano accompaniment, and a bass staff. Dynamics include *mf* and *p*. There are accents over some notes in the treble staff.

Second system of musical notation. It consists of three staves. The treble staff continues the melodic line with accents. The middle staff has a piano accompaniment. The bass staff is mostly empty. A *poco* marking is present above the treble staff.

Third system of musical notation. It consists of three staves. The treble staff has a melodic line with accents and dynamics *mp*, *poco*, *a*, and *poco cresc.*. The middle staff has a piano accompaniment with dynamics *mp*, *poco*, *a*, and *poco cresc.*. The bass staff has a piano accompaniment with dynamics *poco*, *a*, and *poco cresc.*. There are *a*, *poco*, and *accel.* markings above the treble staff.

Fourth system of musical notation. It consists of three staves. The treble staff has a melodic line with accents and dynamics *mf*, *rit.*, and *a tempo*. The middle staff has a piano accompaniment with dynamics *mf*, *rit.*, and *a tempo*. The bass staff has a piano accompaniment with dynamics *mf*, *rit.*, and *a tempo*. There are *e* and *accel.* markings above the middle and bass staves.

meno mosso
♩ = 56

ancora meno mosso
(♩ = 58)

2013.1.16

エイサーのヴァリエーション。中間のテンポが速くなる場所は獅子舞のはやしを、そして最後はゆっくりとした組踊くみうどっいの男役との唱えでこのリズムパターンの組曲は終了する。